

令和6年度

実践報告集（第9号）



大阪府立中津支援学校

実践報告集（第9号）に寄せて

現代は、少子化・人口減少や高齢化、グローバル化の進展、地球規模の課題等を背景に、将来の予測が困難な時代と言われています。加速度を増して変化していく社会の中で、子どもたちがよりよく生きていくため、教育には、「自分の良さや可能性を認識するとともに、他者を尊重し、多様な人々と協働しながら、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会のつくり手となることができる資質・能力」を育成することが求められ、そのために、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を柱とし、地域との連携やICTの活用等を進めていくことが重要とされています。

このような中、大阪府においては、令和5年3月に策定された「第2次大阪府教育振興基本計画」で、子どもたちが時代の変化を乗り越え、将来を生き抜く力を身につけるために、『『おもしろいやん』と様々な物事に興味・関心、好奇心を持ち、チャレンジしていく姿勢、『ええやん』と互いを認め合い、評価することができる心、『まかしとき』と主体的に人や社会の役に立とうとする精神』等の資質・能力を育成することが示されました。

本校には、様々な支援を必要とする児童生徒が在籍しており、個々の児童生徒の多様な教育的ニーズに応じた効果的な支援を行うことをめざして、日々の教育活動に取り組んでいます。本実践報告集では、本校におけるICTの活用や授業実践を通じて得られた成果を共有するとともに、今後の授業改善に向けた課題や展望についても考察しています。また、ICTを駆使した授業の実践例や児童生徒一人ひとりに合った支援の方法を模索する中で、教育の質を高めるための具体的な取り組みや教材教具にも触れています。学校は、常に変化し続ける社会の中で、児童生徒一人ひとりの将来を見据えた学びの場であり続けなければなりません。今後も教職員一人ひとりが、新たな教育技術や方法を積極的に取り入れ、授業改善が、児童生徒の学びにどのように寄与するのかをともに考え、実践しながら追究していきたいと考えています。

本年、大阪府では「大阪・関西万博」が開催されます。今回の万博のテーマである「いのち輝く未来社会のデザイン」は、人間一人ひとりが、自らの望む生き方を考え、それぞれの可能性を最大限に発揮できることを推し進めるものであり、そのまんなかにあるのは、子どもたちのウェルビーイングです。引き続き、日々の教育活動の充実を図りながら、児童生徒の成長を支える力強い基盤を作りあげていきます。

結びに、本実践報告集の発刊にあたり、ご尽力いただきましたみなさまに感謝いたしますとともに、引き続き、ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

本実践報告集がご覧になった方の教育実践に寄与できれば幸いです。

令和7年3月

大阪府立中津支援学校 校長 木下美香子

目 次

第1章 学習教育活動の方針	P 1
1 めざす学校像	P 2
2 学習指導の方針	
小学部	P 2
中学部	P 2
高等部	P 3
第2章 授業改善の取組み「授業改善公開授業」	P 4
1 「授業改善公開授業」の取組み	P 5
2 指導略案および概念化シートについて	P 9
3 ポスター発表資料について	P 43
第3章 授業実践「1人1研究」	P 52
1 特別支援教育に役立つ教材・教具	P 53
2 活動実践事例	P 118
3 講義資料、研修資料等	P 132
第4章 研修報告	P 160
令和5年度 国立特別支援教育総合研究所 特別支援教育専門研修 報告	P 161

巻末に寄せて